








# 教材リスト（発達検査）No. 1 【01～04】

教材・教具	対象	概要
<p>WISC-Ⅲ （支援部ロッカー） 【01】</p> 	<p>5 才から 16 才 11 ヶ月までの児 童生徒の実態把 握 得意不得意の把 握</p>	<p>全般的な知的水準、言語性 IQ（耳で聞いて話し言葉で応答）、動作性 IQ（目で見て手で操作する力）、言語理解（言葉の力）、注意記憶（集中力や聴覚的な記憶）、知覚統合（目で見て理解したり考える力）、処理速度（目で見て処理する力）等の得意、不得意と、実際の生活や検査場面の観察からその子に応じた支援方法を推測します。</p>
<p>WISC-Ⅳ （支援部ロッカー） 【02】</p> 	<p>5 才から 16 才 11 ヶ月までの児 童生徒の実態把 握 得意不得意の把 握</p>	<p>WISC-Ⅲの改訂版です。言語性、動作性を廃止し、全 IQ、言語理解、知覚類推、ワーキングメモリー、処理速度から実態を把握します。 WISC-Ⅲからの変更点は基礎検査を減らし、検査時間を短くしたこと、スピードの影響を減らしたこと、5つの検査を加えたこと、ワーキングメモリーを測定できるようにしたこと等です。</p>
<p>カード式ポータージ乳幼児教育プログラム （支援部ロッカー） 【03】</p> 	<p>0才から6才ま での児童生徒の実 態把握 指導目標や方法 の実際の理解</p>	<p>応用行動分析の原理を元に、行動が達成されているものには○印を、まだ達成されていなければ一印をチェックリストにつけ、これを基に子どもに指導する項目を親と話し合いながら各領域から選びます。その部分のカードの内容をもとに、個々の指導を考えます。</p>
<p>絵画語彙発達検査（PVT） （支援部ロッカー） 【04】</p> 	<p>3 才から 10 才 11 カ月までの 児童生徒の語彙 理解力の実態把 握</p>	<p>子どもの語彙力を早期に発見し、指導に生かすための検査です。 短時間で実施でき、発語がない場合でも、理解語の語彙年齢を知ることができます。 他の検査とのバッテリーが有効です。</p>

# 教材リスト（発達検査）No. 2 【05～08】

教材・教具	対象	概要
DN-CAS （支援部ロッカー） 【05】 	5 歳 0 カ月から 17 歳 11 カ月	DN-CAS は、Luria の神経心理学モデルから導き出された J. P. Das による知能の PASS 理論を基礎とする心理検査です。「プランニング」「注意」「同時処理」「継次処理」の 4 つの認知機能 (PASS) の側面から子どもの発達の様子を捉えることができます。12 種類の下位検査を行う標準実施を基本として、8 種類で行う簡易実施も可能です。子どもたちに見られる認知的偏りの傾向を捉えることができ、援助の手がかりを得るために有効です。
K-ABC （支援部ロッカー） 【06】 	2 才 6 ヶ月から 12 才 11 ヶ月まで 知能（認知処理過程）と習得度を測定	認知処理過程を「継次処理尺度」と「同時処理尺度」に分類することで、得意な処理過程を生かした学習の方法を考えることができます。また、習得度尺度（教育によって身についた数や言葉の力等）も測定できます。これらの 3 つの尺度を比較することで、どんな支援が有効であるかの仮説を立てることができます。イーゼルと呼ばれる本を使用することで、誰でも比較的容易に検査をすることができます。
KIDS （支援部ロッカー） 【07】 	0 歳 1 か月から 6 歳 11 か月の乳幼児	だれでも 15 分ほどで実施でき、自然な行動全般から、項目をチェックしていただくで大まかな発達をとらえることができます。以下の点について把握できます。 1. 運動／体全体の大きな動き 2. 操作／手指などの意図的な動き 3. 理解言語／言葉の理解 4. 表出言語／話すことのできる言葉 5. 概念／状況依存によらない言語的理解 6. 対子ども社会性／友だちとの協調行動 7. 対成人社会性／大人との関係、特に親子関係 8. しつけ／社会生活における基本的なルール 9. 食事／衛生感覚や食事の基本的なルール
WPPSI （支援部ロッカー） 【08】  ※他に WAIS-Ⅲ もあります	WPPSI (3 才 10 ヶ月～7 才 1 ヶ月)  ※WAIS (16 才～89 才)	保育所、幼稚園、教育相談所、児童相談所、小児病院などの臨床場面で広く活用されています。言語性 IQ、動作性 IQ、全検査 IQ の 3 種類の IQ と下位検査プロフィールによる詳細な判断ができ、幼児向けの精密な知能検査として高い信頼性と安定性を得ています。6 種類の言語性下位検査と 5 種類の動作性下位検査で構成されています。  ※WAIS-Ⅲ は大人用です。

## 教材リスト（発達検査）No. 3 【09～12】

教材・教具	対象	概要
<p>新版 K 式発達検査 2001 （支援部ロッカー） 【09】</p> 	<p>新生児から成人 相当</p>	<p>1) 姿勢運動、2) 認知適応、3) 言語社会の3領域に大別され、各領域と全領域について子どもの到達している発達年令段階を測定することができます。通過項目をもとにプロフィールを作成することで、発達の偏りや積み残されている発達の課題を把握し、目標や学習内容の選定に活用できます。検査の順番や提示に柔軟さがあることが特徴です。</p>
<p>新版 S-M 社会生活能力検査 （支援部ロッカー） 【10】</p> 	<p>乳幼児から中学生</p>	<p>誰にでも短時間で簡単に実施でき、子どもの社会生活年齢（SA）と社会生活指数（SQ）を求めることができます。領域別の SA とそのプロフィールから、子どもの社会生活能力の個人内差をとらえることができます。社会生活能力の測定領域は以下の通りです。 1. 身辺自立 2. 移動 3. 作業 4. 意志交換 5. 集団参加 6. 自己統制</p>
<p>田中ビネー（87年改訂版） （支援部ロッカー） 【11】</p> 	<p>2才から成人まで 知的発達、精神年齢、 知能指数の把握</p>	<p>大学の心理学研究、幼稚園から中学校、教育相談所、病院等で幅広く利用されている知能検査です。検査内容は単語の知識、文章の完成、直接記憶、道徳判断などから構成され、問題数は120問あります。全体としては言語の反応を必要とするものはなるべく少なくしていますが、高年齢級では言語的問題が多いです。若年の問題は可能な限り実物を使用しています。知能指数の判断には他の検査と同じく、動揺性（IQ100なら90～110程度の誤差）を考慮します。</p>